



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2016年

号外

購読申し込み

0120-13-1231

ホームページ

www.sakigake.jp

携帯サイト

m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、当社ホームページをご覧ください。

賞 員 ノーベル に 教授 大隅 東工大 大隅 栄誉



大隅良典・東京工業大栄誉教授

医学賞 生理学賞 細胞の自食作用解明

【ストックホルム共同】スウェーデンのカロリンスカ研究所は3日、2016年のノーベル医学生理学賞を、細胞が自分のタンパク質を分解してリ

サイクルする「オートファジー(自食作用)」と呼ばれる仕組みを解明した大隅良典・東京工業大栄誉教授(71)に授与すると発表した。

細胞が正常な働きを保つための仕組みで、異常があるとがんやアルツハイマー病などにつながる。今後の創薬に役立つと期待される研究が最高の栄誉に輝いた。

日本人のノーベル賞受賞は3年連続で、25人目の快挙。医学生理学賞は、熱帯病薬の発見により昨年受賞した大村智・北里大特別栄誉教授(81)に続く4人目で、オリジナルの研究成果が高く評価された。

大隅氏は1988年、単細胞生物の酵母を顕微鏡で観察中に、細胞内に

膜ができ、不要なタンパク質を取り囲んで除去する現象を見つけた。ごみの除去だけではなく、飢餓状態のときに、自らのタンパク質を栄養とするためにリサイクルしていることも突き止めた。

オートファジーは人を含む哺乳動物でも起こっており、働きに異常があると細胞にごみがたまり、病気につながる。生命を維持する根本的な仕組みとされる。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金800万珞(約9500万円)が贈られる。